

学科	理容科	担当教員	宗像		
科目名	関係法規・制度	学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	法律が理容師とどう関わるのか、具体的事例を通じて学ぶ。国家試験に合格できる十分な点数を取るために、正確な知識を習得する。暗記に頼らず、「なぜ」法律にこう規定されているのか、自ら考える力をつけることに重点を置く。				
授業回	学習内容			備 考	
1	(1)法制度の概要・法とは何か (2)理容師免許の取得方法 【到達目標】法律とは何かを説明できる。理容師となった時に、法律とどう関わりを持つのか、法律の存在意義を知る。理容師免許を取得するまでの過程を説明できる。			毎回プリントを配布するため、「関係法規」のファイル（フラットファイル）を用意すること。第一回目の授業で詳細をお伝える。	
2	(1)用語の定義 (2)理容師免許制度 【到達目標】法律上「理容」や「理容所」がどういう意味であるかを的確に説明できる。理容師免許の取得後の扱いについて説明できる。				
3	(1)理容師の守るべき義務 (2)理容師に対する行政処分 (1)管理理容師 【到達目標】理容師の負う義務について知るとともに、どのような違反をするとどのような処分が与えられるかが理解する。管理理容師の仕事内容・資格の取得方法など管理理容師の全てを体系的に把握できる。				
4	(2)理容所の開設 (2)立入検査 【到達目標】理容所の解説の流れを説明できる。さらに開設後に行われる検査について説明ができる。				
5	(1)開設者が負う義務 (2)理容所以外の業務 【到達目標】解説者が負う義務とそれに対する処分を理解する。理容所以外で理容業ができる場合を説明できる。				
6	(2)行政処分・罰則 (3)行政機関・保健所・衛生行政 【到達目標】誰がどのような違反をするとどの処分、罰則が出されるか、正確に伝えることができる。保健所が行政機関としてどのように理容所に関わっているかを説明できる。				
到達目標	理容師法の基本知識を正確に取得する。 一つ一つの条文の具体的場面を説明することができる。 その条文が「なぜ」存在しているのか、「何のために」設けられているか、説明することができる				
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3)を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	関係法規・制度（公益社団法人日本理容理容教育センター）				

学科	理容科	担当教員	佐藤		
科目名	衛生管理(公衆衛生・環境衛生)	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8
教育目標・ ねらい	公衆衛生の意義と課題また環境衛生における発展の歴史に関する知識を幅広く身につけることで理容師として安心、安全、かつ衛生的に施術することができる。				
授業回	学習内容			備 考	
1	1編 公衆衛生 第一章 公衆衛生の概要 1節 公衆衛生の意義と課題 【到達目標】公衆衛生の意義について理解をさせると共に、公衆衛生が日常生活にどのように結び付くかについて理解し、説明することができる。				
2	2節 公衆衛生発展の歴史 ①欧米の公衆衛生②我が国の公衆衛生の歩み ③消毒法の歴史 【到達目標】公衆衛生の発展の歴史を概観し、公衆衛生の思想がどのように発展してきたかについて理解し、説明することができる。				
3	2節 公衆衛生発展の歴史 ①欧米の公衆衛生②我が国の公衆衛生の歩み ③消毒法の歴史 【到達目標】WHO・公衆衛生の歴史を学び、各種保険について出生率・死亡率について理解し、説明することができる。				
4	期末試験（前期）				
到達目標	理容師として必要な公衆衛生を学び、国家資格を得るにあたって十分に必要な知識を習得している。				
評価方法	各期筆記試験（100点満点）で評価する。なお、所定授業時間数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	・日本理容美容教育センター指定教科書 ・配布プリント				

学科	理容科	担当教員	佐藤		
科目名	衛生管理(公衆衛生・環境衛生)	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8
教育目標・ ねらい	理容師・美容師と公衆衛生の繋がりを理解し、知識を幅広く身につけることで、理容師として安心、安全、かつ衛生的に施術することができる。				
授業回	学習内容				備 考
1	3節 理容師・美容師の公衆衛生 ①歴史の中の理容師・美容師と公衆衛生、②公衆衛生と理容師・美容師 【到達目標】公衆衛生が理容業とどのように結び付くか公衆衛生の発展向上のために理容師として何をなすべきかについて理解し、説明することができる				
2	4節 保健所と理容業・美容業 【到達目標】保健所の機能、組織、業務などについて学び、保健所が地域の保健衛生行政において、中核的な存在であること及び理容業と保健所とは密接な関係であることについて理解し、説明することができる				
3	第二章 1節 保健 ①保健 ・母子保健・成人・高齢者保健・精神保健 【到達目標】公衆衛生は対人的な予防医学と対物的な環境衛生と大別されることを理解し、さらに環境衛生が健康で文化的な生活の基盤をなすものであることについて理解し、説明することができる				
4	期末試験（後期）				
到達目標	理容師として必要な公衆衛生を学び、国家資格を得るにあたって十分に必要な知識を習得している。				
評価方法	各期筆記試験（100点満点）で評価する。なお、所定授業時間数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	・日本理容美容教育センター指定教科書 ・配布プリント				

学科	理容科	担当教員	佐藤		
科目名	衛生管理（感染症）	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8
教育目標・ ねらい	感染症の分類や発生の要因、予防に関する知識を幅広く身につけることで、理容師として安心、安全かつ衛生的に施術することができるようになる。				
授業回	学習内容				備 考
1	1章 感染症の総論 1節 人と感染症 ①感染症発見の歴史 ②感染症と法律 ③感染症の分類 【到達目標】①研究者の歴史(人名と業績)②感染症の分類(法律上)について理解し、説明することができる				プリント
2	2節 病原微生物 ①微生物の種類 ②微生物の形と大きさ ③微生物の構造 ④微生物の増殖と環境の影響 【到達目標】①形や大きさ、細菌の図解による説明(芽胞含む) ②微生物の増殖や好む環境について理解し、説明することができる				プリント
3	3節 感染症の予防 ①微生物の病原性と人体の感受性 ②汚染、感染及び発病 感染症まとめ（期末試験対策） 【到達目標】感染源、感染経路、宿主の感受性について理解し、説明することができる				プリント
4	期末試験（前期）				
到達目標	理容師として必要な感染症に対する知識を学び、国家資格を得るにあたって十分に必要な知識を習得している。				
評価方法	各期筆記試験（100点満点）で評価する。 なお、所定授業時間数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	日本理容美容教育センター指定教科書 配布プリント				

学科	理容科	担当教員	佐藤		
科目名	衛生管理（感染症）	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 （単位）	8
教育目標・ ねらい	理容・美容と感染症の繋がりに関する知識を幅広く身につけることで、理容師として安心、安全かつ衛生的に施術することができる。				
授業回	学習内容			備 考	
1	3節 感染症の予防 ③常在細菌 ④免疫と予防接種 【到達目標】 各種感染症の予防について理解し、説明することができる			プリント	
2	3節 感染症の予防 ⑤感染症発生の要因 ⑥感染症予防の3原則 【到達目標】 各種感染症の特徴や主症状ついて理解し、説明することができる			プリント	
3	2章 感染症の各論 1節 理容・美容と感染症 感染症まとめ（期末試験対策） 【到達目標】 理容・美容の業務と感染症の関わりを理解し、感染症についての知識 ついて理解し、説明することができる			プリント	
4	期末試験（後期）				
到達目標	理容師として必要な感染症に対する知識、予防方法を学び、国家資格を得るにあたって十分に必要知識を習得している。				
評価方法	各期筆記試験（100点満点）で評価する。 なお、所定授業時間数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	日本理容美容教育センター指定教科書 配布プリント				

学科	理容科	担当教員	佐藤		
科目名	衛生管理(衛生管理技術)	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8
教育目標・ ねらい	消毒法の種類や必要な条件に関する知識を幅広く身につけることで理容師として安心、安全かつ衛生的に施術することができる。				
授業回	学習内容			備 考	
1	第一章 消毒法総論 【到達目標】①微生物と人との関係、ヒトの防衛力について理解し、説明することができる				
2	第一章 消毒法総論 消毒法とは ①病原微生物と非病原微生物 ②消毒の原理 【到達目標】①消毒(殺菌)に必要な条件を知る ②病原微生物の抵抗力について理解し、説明することができる				
3	第一章 消毒法総論 消毒の意義 ①汚染、感染、発病と消毒の意義、②殺菌、消毒、滅菌、防腐の定義 【到達目標】消毒薬の長所・短所について把握し、理容所、美容所での器具や布片類をはじめとする設備に対しての適切な消毒薬について理解し、説明することができる				
4	期末試験（前期）				
到達目標	理容師として必要な消毒の種類知識を学び、国家資格を得るにあたって十分に必要な知識を習得している。				
評価方法	各期筆記試験（100点満点）で評価する。なお、所定授業時間数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	・ 日本理容美容教育センター指定教科書 ・ 配布プリント				

学科	理容科	担当教員	佐藤 典子		
科目名	衛生管理(衛生管理技術)	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8
教育目標・ ねらい	理容・美容の業務と順守すべき消毒法の関係を理解し、知識を幅広く身につけることで理容師として安心、安全かつ衛生的に施術することができる。				
授業回	学習内容				備 考
1	第一章 消毒法総論 理容・美容の業務と消毒との関係 ①消毒に関連のある法の規定、②消毒を怠った場合の危険と理容師・美容師の責任 【到達目標】①消毒に関連する法の規定 ②消毒の重要性と怠った場合の危険性について理解し、説明することができる				
2	第一章 消毒法総論 消毒法と適用上の注意 ①消毒法の種類 ②消毒（殺菌）に必要な条件 【到達目標】①理学的消毒法の特徴 ②化学的消毒法の特徴（長所・短所を含む）について理解し、説明することができる				
3	第一章 消毒法総論 消毒法と適用上の注意 ③病原微生物の抵抗力、④消毒法・消毒薬使用液の使用、保存上の注意 【到達目標】適切な消毒薬が効果的に作用する温度や時間や希釈方法について理解し、説明することができる				
4	期末試験（後期）				
到達目標	理容師として必要な理容所における消毒法を学び、国家資格を得るにあたって十分に必要な知識を習得している。				
評価方法	各期筆記試験（100点満点）で評価する。なお、所定授業時間数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	・日本理容美容教育センター指定教科書 ・配布プリント				

学科	理容科	担当教員	古 荘		
科目名	保健（人体）	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8
教育目標 ・ねらい	人体の構造、機能に関する知識を、理容・美容技術と関連させながら学ぶ。また、人体に関しての知識を幅広く身につけることで理容師として安心、安全に施術することができるのに加え、より効率性、効果性を高めることができる。				
授業回	学習内容			備 考	
1	第1章 頭部、顔部、頸部の体表解剖学 ・人体各部の名称、・頭部、顔部、頸部の体表解剖学 【到達目標】理容師の日常業務で特に大切な部位である「頭部」「顔部」「頸部」の名称や人体の位置などを正確に理解し、説明することができる				
2	第2章 骨格器系 ・骨の種類と構造、骨の連結、骨格器系とのそのはたらき 【到達目標】人体の支柱である「骨格」について人体構成する骨格に数、骨角器系はどのように形成させているのかを理解し、説明することができる				
3	第3章 筋系 ・筋の種類とその特徴、主な骨格筋とそのはたらき、表情筋と表情運動、理容・美容の作業と筋疲労 【到達目標】骨格筋、心筋、平滑筋の違いを理解し、説明することができる				
4	期末試験（前期）				
到達目標	理容師として必要な人体の構造及び機能を学び、国家資格を得るにあたって十分に必要な知識を習得している。				
評価方法	各期末試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	『保健』（理容美容教育センター編）、配布プリント（まとめ・練習問題）				

学科	理容科	担当教員	古 荘		
科目名	保健（人体）	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8
教育目標 ・ねらい	人体の構造、機能に関する知識を、理容・美容技術と関連させながら学ぶ。また、人体に関しての知識を幅広く身につけることで理容師として安心、安全に施術することができるのに加え、より効率性、効果性を高めることができる。				
授業回	学習内容			備 考	
1	第4章 神経系 ・神経系の成り立ち、中枢神経とそのはたらき、末梢神経とそのはたらき 【到達目標】 中枢神経の構造と機能および交感神経と副交感神経の違いについて理解し、説明することができる				
2	第5章 感覚器系 ・視覚、聴覚、平衡感覚、味覚、嗅覚、皮膚感覚 【到達目標】 各感覚器の構造と受容のしくみを理解し、説明することができる				
3	第6章 血液・循環器系 ・血液のあらまし、毛輸液循環の仕組み、血液循環経路、心臓と血管のはたらき、リンパ管系の仕組みとはたらき 【到達目標】 血液の血球成分や種類と特徴を学び大循環、小循環、門脈循環の仕組みとその機能およびリンパ官系の構造と機能を理解し、説明することができる				
4	期末試験（後期）				
到達目標	理容師として必要な人体の構造及び機能を学び、国家資格を得るにあたって十分に必要な知識を習得している。				
評価方法	各期末試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	『保健』（理容美容教育センター編）、配布プリント（まとめ・練習問題）				

学科	理容科	担当教員	古 荘		
科目名	保健（皮膚科学）	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標 ・ねらい	皮膚科学に関する知識を、理容・美容技術と関連させながら学ぶ。また、皮膚科学に関しての知識を幅広く身につけることで理容師として安心、安全に施術することができるのに加え、より効率性、効果を高めることができる。				
授業回	学習内容				備 考
1	第1章 皮膚の構造① ・皮膚の表面、皮膚の断面、表皮 【到達目標】皮膚表面の構造、皮膚表面において3層構造になっていることを理解し、説明することができる				
2	第1章 皮膚の構造② ・表皮と真皮の境、真皮、皮下組織 【到達目標】理容師の業務上必要知識となる、皮膚各部の特徴について理解し、説明することができる				
3	第1章 皮膚の構造③ ・皮膚の部位差、総まとめ 【到達目標】体内で最も大きな器官で複雑な機能を持つ皮膚の構造を理解し、説明することができる				
4	第2章 皮膚の付属器官の構造① ・毛、脂腺（皮脂腺）汗腺、爪 【到達目標】毛の構造、成長周期、立毛筋について理解し、説明することができる				
6	第2章 皮膚の付属器官の構造② ・毛、脂腺（皮脂腺）汗腺、爪【到達目標】毛髪性状とそれを利用した理容技術の関連性を理解し、説明することができる				
7	第2章 皮膚の付属器官の構造② ・総まとめ 【到達目標】皮膚付属器官の構造と機能を理解し、説明することができる				
8	期末試験（前期）				
到達目標	理容師として必要な皮膚科学を知識を学び、国家資格を得るにあたって、十分に必要な知識を習得している。				
評価方法	各期末試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	『保健』（理容美容教育センター編）、配布プリント（まとめ・練習問題）				

学科	理容科	担当教員	古 荘		
科目名	保健（皮膚）	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標 ・ねらい	皮膚科学に関する知識を幅広く身につけることで理容師として安心、安全に施術することができるのに加え、より効率性、効果を高めることができる。				
授業回	学習内容				備 考
1	第3章 皮膚の循環器系と神経系① ・ 皮膚の血管、皮膚のリンパ管 【到達目標】 血流と皮膚組織の健康、リンパ系について理解し、説明することができる				
2	第3章 皮膚の循環器系と神経系② ・ 皮膚の神経、総まとめ 【到達目標】 知覚神経と自律神経のはたらきについて理解し、説明することができる				
3	第4章 皮膚と付属器官の生理的機能① ・ 対外保護作用、体温調節作用、知覚作用と皮膚反射 【到達目標】 生命維持に必要な皮膚の様々な役割について理解し、説明することができる				
4	第4章 皮膚と付属器官の生理的機能② ・ 分泌排泄作用、呼吸作用、呼吸作用 【到達目標】 皮膚とその付属器官が多種多様なはたらきをしていることで、身体を保護していることを理解し、説明することができる				
5	第4章 皮膚と付属器官の生理的機能③ ・ 吸収作用、貯蔵作用 【到達目標】 紫外線の様々な害などについて認識させるとともに、紫外線から身体を保護することにより健康維持に繋がることを理解し、説明することができる				
6	第4章 皮膚と付属器官の生理的機能④ ・ 経皮吸収 【到達目標】 皮膚が行う「経皮吸収」について理容業務と関連付けながら理解し、説明することができる				
7	第4章 皮膚と付属器官の生理的機能⑤ ・ 総まとめ 【到達目標】 皮膚が行う「体温調節作用」や知覚、分泌、排泄、吸収、免疫、修復などの重要な作用を理解し、説明することができる。				
8	期末試験（後期）				
到達目標	皮膚科学に関する知識を、理容・美容技術と関連させながら学ぶ。また、皮膚科学に関する知識を幅広く身につけることで理容師として安心、安全に施術することができるのに加え、より効率性、効果を高めることができる。				
評価方法	各期末試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				

テキスト	『保健』（理容美容教育センター編）、配布プリント（まとめ・練習問題）
------	------------------------------------

学科	理容科	担当教員	鈴木		
科目名	香粧品化学	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	理容師として毛髪のみならず薬剤といった香粧品に関しても幅広く知識を身につけることで、安全に安心して施術することができる。				
授業回	学習内容				備 考
1	第1章 香粧品概論① ・香粧品の一般的概念と、香粧品に関わる法律について 【到達目標】香粧品の社会的意義および香粧品の定義と規制について理解し、説明することができる。				
2	第1章 香粧品概論② ・香粧品の一般的概念と、香粧品に関わる法律について 【到達目標】香粧品の品質特性やその種類と機能を理解し、説明することができる				
3	第2章香粧品用原料① ・水性原料 【到達目標】香粧品に使用される水性原料の種類と性質、および保湿剤について理解し、説明することができる。				
4	第2章香粧品用原料② ・油性原料 【到達目標】香粧品に使用されている油性原料の機能および種類と性質について理解し、説明することができる。				
5	第2章香粧品用原料③ ・界面活性剤 【到達目標】香粧品に使用されている界面活性剤の種類について理解し、説明することができる。る。				
6	第2章香粧品用原料④ ・高分子化合物【到達目標】香粧品に使用されている高分子化合物の種類と用途について理解し、説明することができる。				
7	第2章香粧品用原料⑤ ・色材、香料【到達目標】香粧品に使用されている色材の種類と性質及び香料の役割、種類について理解し、説明することができる。				
8	・期末試験（前期）				
到達目標	・香粧品に関する法律について知ったうえで、施術を可能にする。 ・香粧品に配合されている成分に対し配合目的を明確に説明可能にする。 ・頭皮・毛髪用の香粧品については、特徴・使用法・関連法規を説明可能にする。				

評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。
テキスト	・日本理容美容教育センター指定教科書 ・配布プリント

学科	理容科	担当教員	鈴木		
科目名	香粧品化学	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	理容師として毛髪のみならず薬剤といった香粧品に関しても幅広く知識を身につけることで、安全に安心して施術することができる。				
授業回	学習内容				備 考
1	第2章香粧品用原料⑥ ・香粧品に用いられる製品安定化剤について（その他の配合成分） 【到達目標】その他の配合成分として品質保持成分や特殊成分について理解し、説明することができる。				
2	第2章香粧品用原料⑦ ・香粧品に用いられる製品安定化剤について （ネイル・まつ毛エクステンション用） 【到達目標】ネイル、まつ毛エクステンション用材料について知識を深め理解し、説明することができる。				
3	第3章基礎化粧品① ・皮膚用基礎化粧品について（皮膚洗浄用化粧品） 【到達目標】皮膚洗浄用化粧品の種類と作用と性質について理解し、説明することができる。				
4	第3章基礎化粧品② ・皮膚用基礎化粧品について（化粧水） 【到達目標】化粧水の種類と機能性について理解し、説明することができる。				
5	第3章基礎化粧品③ 皮膚用基礎化粧品について（クリーム） 【到達目標】クリームと乳液の種類と機能、皮膚への作用について理解し、説明することができる。				
6	第3章基礎化粧品④ ・皮膚用基礎化粧品について（その他の基礎化粧品） 【到達目標】その他の基礎化粧品、美容液やパック剤について理解し、説明することができる。				
7	第3章基礎化粧品⑤ ・皮膚用基礎化粧品について（メイクアップ、芳香製品） 【到達目標】メイクアップ用化粧品の種類と剤形について理解し、説明することができる。				
8	・期末試験（前期）				

到達目標	・香粧品に関する法律について知ったうえで、施術を可能にする。 ・香粧品に配合されている成分に対し配合目的を明確に説明可能にする。 ・頭皮・毛髪用の香粧品については、特徴・使用法・関連法規を説明可能にする。
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。
テキスト	・日本理容美容教育センター指定教科書 ・配布プリント

学科	理容科	担当教員	坂上		
科目名	文化論（理容文化論）	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 （単位）	8
教育目標・ ねらい	・日本と西洋のヘア、メイク、服装の変遷を学ぶ				
授業回	学習内容			備 考	
1	・総論 ・日本の理容業美容業の歴史 【到達目標】日本の理容業、美容業の歴史ならびに理容業、美容業の原点の理解を深め説明できる。				
2	・ファッション文化史 日本編① 【到達目標】縄文、弥生、古墳時代における髪型、服装、化粧などの特徴を学び当時の時代背景や生活スタイルについて説明ができる。				
3	・ファッション文化史 日本編② 【到達目標】飛鳥、奈良、平安時代および鎌倉、室町、戦国時代の髪型、服装、化粧についての変遷について説明ができる。				
4	・期末試験（前期）				
到達目標	現代までのファッション（髪型・メイク・服装）の変化の変遷を知り、美の成り立ちを理解する。				
評価方法	期末試験（100点満点）で評価する。なお、所定授業時間時間（全体の2/3）を下回る学生は、受験することができない。				
テキスト	・日本理容美容教育センター指定教科書				

学科	理容科	担当教員	坂上		
科目名	文化論（理容文化論）	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8
教育目標・ ねらい	・日本と西洋のヘア、メイク、服装の変遷を学ぶ				
授業回	学習内容				備 考
1	・ファッション文化史 日本編③・④ 【到達目標】 江戸、明治、大正、昭和の髪型について学び日本髪の変遷に伴って西洋束髪の変遷までの変遷について説明ができる。				
2	・ファッション文化史 西洋編① 【到達目標】 古代エジプト、ギリシャ、ローマ、ゲルマンの髪型、服装、化粧などの特徴を学び当時の時代背景や生活スタイルについて説明ができる。				
3	・ファッション文化史 西洋編② 【到達目標】 16世紀の髪型、服装、化粧などの特徴を学び当時の時代背景や生活スタイルについて説明ができる。				
4	・期末試験（後期）				
到達目標	現代までのファッション（髪型・メイク・服装）の変化の変遷を知り、美の成り立ちを理解する。				
評価方法	期末試験（100点満点）で評価する。なお、所定授業時間時間（全体の2/3）を下回る学生は、受験することができない。				
テキスト	・日本理容美容教育センター指定教科書				

学科	理容科	担当教員	大草		
科目名	文化論（理容色彩学）	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	・色彩学の基礎を理解し、理美容のデザインに応用できるようにスキルアップを目指す。				
授業回	学習内容				備 考
1	・色の機能（色の持つ役割、機能） 【到達目標】色を感じる仕組みや色と人間の関わり合いについて説明することができる。				
2	・光の性質（光、色と波長、スペクトル） 【到達目標】色を再現する仕組みを理解し説明することができる。				
3	・補色 【到達目標】補色の関係を理解し、応用することができるようになる。				
4	・三属性とカラーシステム 【到達目標】正確に色を分類するための基準を知り、微妙な色の違いを見分け方について説明することができる。				
5	・トーンイメージ 【到達目標】少しの色の差やイメージの変化をいかに表現できるかについて説明することができる。				
6	・色彩調和（自然から学ぶ配色、配色技法） 【到達目標】配色の基本的な考え方について説明することができる。				
7	・配色イメージ 【到達目標】配色の効果や調和について説明することができる。				
8	・ファッションにおける色彩 【到達目標】ベースカラー及びパーソナルカラーの基本的な考えを理解し説明することができる。				
到達目標	色彩学の基礎を十分に理解し、デザインをはじめ様々な分野に応用できるようになる。				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時間数（全体の2/3）を下回る学生は、評価対象としない。				
テキスト	・授業毎にプリント配布				

学科	理容科	担当教員	畑中		
科目名	運営管理（マーケティング）	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 （単位）	6
教育目標・ ねらい	仮想店舗の創作を体験したり、「運営管理」のテキストで理論を習得したりすることで、将来、サロン内外で管理業務的職務の遂行が必要になった場合に対応できるようになる。				
授業回	学習内容			備 考	
1	標的の決め方と強みの出し方、業界の損益計算書の指標について 【到達目標】 ・マーケティングとは何か、ターゲットを細分化して決めることが出来るようになる。 ・店舗の経費配分の比率が分かるようになる。				
2	貯金の大切さの周知と班別に創作したコンセプトの確認（前半） 【到達目標】 ・どのように差別化された店舗コンセプトを作ったら良いのかを説明できるようになる。				
3	班別に創作したコンセプトの確認（後半） 【到達目標】 ・どのように差別化された店舗コンセプトを作ったら良いのかを説明できるようになる。				
到達目標	サロン運営の基礎知識を学び、将来的に、店舗オーナーや管理者になったときに役に立つ知識を課そう体験すると同時に、国家試験科目の「運営管理」に対応できるものとする。				
評価方法	個別の知識については、授業内での班ごとの指導時にやりとりした内容によって評価する。				
テキスト	運営管理(日本理容美容教育センター) 及びプリント プリントは紛失すると履修できないので、必ずファイリングし、授業に持参すること				

学科	理容科	担当教員	武智		
科目名	運営管理（店舗設計）	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 （単位）	9
教育目標・ ねらい	店舗設計を通じて、お客様（社会）が求めるサロンを自らが考える力を身につける				
授業回	学習内容			備 考	
1	最新の店舗デザイン 【到達目標】 様々な店舗を知り、将来造りたい（勤めたい）サロンをイメージする				
2	店舗に関わる法的概要 【到達目標】 理容師美容師法を理解し、開業時に必要な事項を身に付ける				
3	色と光の基礎知識と演出手法 【到達目標】 色は光に依って見え方が変わり、技術がより良く見える手法を身に付ける				
4	店舗レイアウトの考え方 【到達目標】 行動学・心理学に基づき、儲かる店のレイアウトの考え方を身に付ける				
5・6	理美容業界のマーケティングと最新繁盛サロンの事例 【到達目標】 理美容業界の過去の変遷を学び、今後の社会が望むサロンづくりを考える				
到達目標	各講義の基礎知識を身に付け、勤めたい店（開業したい店）のイメージを作り上げる				
評価方法	提出レポートにより100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は評価対象としない。				
テキスト	(株)タカラスペースデザインが実際に施工した最新の店舗デザインパネルを使用 パワーポイントでの映像およびプリント				

学科	理容科		担当教員	池田・桝瀬	
科目名	理容技術理論		学 年	1	実施時期 前期・後期
授業形態	演習		必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位) 60
教育目標・ ねらい	理容技術理論の基礎とともに、技術内容ともあわせて理解することが出来るようにする。				
授業時間数	学習内容				備 考
1	理容技術の基礎	(1) 人体の各部の名称 (2) 理容技術における技術姿勢 (3) 理容技術とトレーニング			
2	理容マッサージ	(1) マッサージの意義と効果 (2) 理容マッサージのマニピュレーション			
3	理容用具	理容用具の名称 ～ シザーズ、レザー、クリッパー、コーム、ブラシ、ヘアアイロン、ヘアドライヤー ～			
4	シャンプーイング＆ リンシング	(1) シャンプーイングの方法 (2) シャンプーイングの技法 (3) リンシング			
5	ヘアトリートメント	(1) ヘアトリートメントの種類 (2) ヘアトリートメントの一例			
6・7	ヘアカッティング	(1) ヘアカッティングの基本原則 (2) デザインヘアのスタイル別カットシステム (3) デザインヘアカットの一例			
8	パーマメントセット	(1) パーマネントウエービング (2) ワインディング (3) アイアニング (4) デジタルパーマ			
9	ヘアカラーリング	(1) 色彩の原理 (2) 染毛剤の種類と原理 (3) 染毛剤の安全性と取扱上の注意 (4) ヘアカラーリング技術プロセス			
10・11	シェービング	(1) シェービングの要件 (2) シェービングの種類 (3) シェービングの基本技術と要領 (4) シェービングプロセス			
12	理容エステティック	(1) スキンケア (2) フェイシャルケア			
13・14	ヘアカッティング	(1) ヘアカッティングの基本原則 (2) ヘアカッティングの一般手順			
授業時間数	学習内容				備 考

15	学期末試験	学科試験	
到達目標	理容技術は、人を対象として直接皮膚に触れたり、刃物を使うことから、どの技術も習練が必要であり、何より安全性が必要とされる。そのために技術理論の意義を十分理解し、理容師としての基礎的知識を習得する。		
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない		
テキスト	「理容技術理論1・2」		
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる理容師養成の観点から授業を行う		

学科	理容科	担当教員	池田・桝瀬		
科目名	理容実習	学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	540
教育目標・ ねらい	理容技術理論の基礎とともに、技術内容ともあわせて理解することが出来るようにする。				
授業回	学習内容			備 考	
1・2	基礎トレーニング	正しい道具の持ち方や使用方法ならびに正しい作業姿勢を教科書に沿って学び、理容師としての基礎的知識技能を習得する。		14時間	
3・4	理容マッサージ	お客様に快感を与えられるマッサージ理論と技術の習得とお客様から好感を持たれる接客力を習得する。		14	
5・6	ブロッキング	カッティングやワインディングなどの施術を正確に容易にするために、正しいスライスで毛髪を分け、頭部をいくつかに分けるブロッキング技術を習得する。		20	
7～12	セイムレイヤー	セイムレイヤーカットの特徴である全ての毛髪が同じ長さで切り揃えられるよう、ヘアカッティング理論と技術を習得する。		42	
13～24	ワインディング	パーマメントウェーブ技術に必要な理論ならびにワインディング技術（上巻き、下巻き）を習得する。		90	
25～30	理容シャンプー	お客様に快感を与えられるシャンプー理論と技術の習得とお客様から好感を持たれる接客力を習得する。		42	
31～35	フェードカット	フェードカットスタイルの特徴である美しい刈り上げの色彩と、シルエットを表現できるよう、ヘアカッティング理論とスタンダードカット技術並びにブローセット理論・技術の習得。		30	
36～41	ワンレングスカット	ワンレングスカットの特徴である同一線上のカットラインを表現できるよう、ヘアカッティング理論と技術並びにドライヤーとヘアブラシによるブローセット理論及び技術を習得する。		40	
42～49	グラデーションカット (インサイド・アウトサイド グラデーション)	グラデーションスタイルの特徴である段差の種類を学ぶ（インサイド・アウトサイド）ことで、グラデーションカットデザインの幅を理解し、目的に合わせて使い分けられるよう理論及び技術を習得する。		40	
50～54	グラデーション ボブカット	グラデーションボブスタイルの特徴である美しい丸みのあるシルエットとカットラインを表現できるよう、ヘアカッティング理論・技術並びにブローセット理論・技術を習得する。		40	

授業回	学習内容		備 考
55～61	シェービング	お客様に快感を与えられシェービング理論と技術の習得とお客様から好感を持たれる接客力の習得。	56時間
62～68	アップスタイル	アップスタイルに必要な美しいフォルムバランスや、毛流れ、面の艶を表現できるよう、仕込み(事前準備)やスタイリング剤の種類・量、多彩なコーム・ブラシによるアップスタイルの基礎技術を習得する。	56
69～75	フォーマルカット	国家試験合格を見据えながらミディアムカットスタイル(試験課題)をデザインするために必要なヘアカッティング理論とスタンダードヘアカット技術の習得。	56
到達目標	理容技術は、人を対象として直接皮膚に触れたり、刃物を使うことから、どの技術も習練が必要であり、何より安全性が必要とされる。そのために技術理論の意義を十分理解し、理容師としての基礎的技能を習得する。		
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない		
テキスト	「理容技術理論1・2」「技術テキスト」		
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う		

学科	理容科	担当教員	大草		
科目名	理容美術（絵画法とデッサン）	学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	18
教育目標・ ねらい	ビューティクリエーターに重要な人体頭部のバランスの描き方を習得する。 顔のパーツをしっかり表現できるようになることから始め、後半部分はチャレンジカップに向けて理解を深める				
授業回	学習内容			備 考	
1・2	“色”の見極め「鉛筆の持ち方・使い方を知る」 【到達目標】 鉛筆で色の段階・色の濃淡を描き分けられるようになる			鉛筆（2H・H・HB・2B・4B）,消しゴム,1.0mmサインペン,直定規,練り消しゴム、 A4版ケント紙。方眼紙	
3～5	“人物表現”-1 顔のパーツ及び髪の毛の描き方の特徴を知る 【到達目標】 特徴を捉え描き分けられるようにする（順次：目や髪の毛の特徴）				
6～7	“サロンデザイン1” チャレンジカップに向けた準備 【到達目標】 透視図法を理解する（Ibis Paintアプリ操作方法）				
8・9	撮 影（外観、内覧） ・ トレース作業 【到達目標】 透視図法を理解する（Ibis Paintアプリ操作方法）				
到達目標	① デッサンの基礎を習得する ② 透視図法について学び、Ibis Paintというアプリの操作方法を習得する				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する、なお、所定の授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	各課題においてプリント配布				

学科	理容科	担当教員	大草		
科目名	理容美術（造形学とデザイン）	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	12
教育目標・ ねらい	店舗開発表現方法としての透視図法や画材を用いた着彩テクニック及び店舗案内表示について学び、サロンモデル開発のための表現方法を身につける				
授業回	学習内容			備 考	
1	透視図法のアプリの指導と共に店舗デザインの具体的な表現指導。 【到達目標】 案内表示制作及びアイコン制作（チョークアート）			クロッキー帳,直定規 など	
2	同 上 【到達目標】 外国の方々にも理解できるアイコン制作の実施				
3～5	“アイディアを表現する1” チョークアートの表現方法及び書体について理解する 【到達目標】 外国の方々にも理解できるアイコン制作の実施			〃	
6・7	“アイディアを表現する2” チョークアートブラッシュアップ 【到達目標】 アイビスプリント内での作業			〃	
到達目標	自分のアイディアをラフスケッチから具体的な表現へ結びつけるため、書体、色彩、レイアウトなどデザインとは何かということを知り、明確な伝達手段方法を習得する				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する、なお、所定の授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	各課題においてプリント配布				

学科	理容科	担当教員	杉崎		
科目名	表現技術（話し方）	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 （単位）	14
教育目標・ ねらい	社会人として必要なコミュニケーションツールである、言葉づかい、電話応対などの表現スキルを上げます。12月のジョブパス検定3級合格を目指します。				
授業回	学習内容			備 考	
1	社会人としての心構え。話し方、聞き方のポイントについて 【到達目標】口の利き方で人間関係が変わるという意味を知る			ガイダンス	
2	好感のもたれる話し方（丁寧語、尊敬語、謙譲語の練習問題と復習） 【到達目標】敬語の文法を再確認し、日常で使えるように練習する			ワークブック	
3	電話応対（マナーと配慮するポイント） 【到達目標】職場での電話応対がスムーズに行えるよう基本的な流れを理解する			ワークブック	
4	電話の受け方 【到達目標】マニュアルを作成しながら、さまざまな場面での受け方の言葉づかいやメモの書き方を身につける			ワークブック	
5	電話の受け方（さまざまな場面での応対練習） 【到達目標】電話での取り次の際の心配りなど、表現や対応を身につける			ワークブック	
6	電話のかけ方 【到達目標】マニュアルを作成しながら、さまざまな場面でのかけ方の言葉づかいや流れを身につける。			ワークブック	
7	話し方論まとめ。練習問題と一般常識（税金など） 【到達目標】社会保障、税金、給与など、一般常識を理解する			ワークブック	
到達目標	社会人としての言葉づかいを身につける。12月のジョブパス検定3級に合格する。				
評価方法	ビジネスマナーワークブック提出（2回）及びジョブパス検定3級合格にて単位取得				
テキスト	ビジネスマナーワークブック、ビジネス能力検定3級テキスト				

学科	理容科	担当教員	杉崎		
科目名	国語と文章	学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	座学（ワークブック・テキスト）	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	16
教育目標・ ねらい	企業の組織や役職、社内、社外文書やメールを通してビジネス実務を身につけます。新聞記事を活用して、時事用語、ビジネス関連常識を増やしていきます。				
授業回	学習内容			備 考	
1	PCの活用方法と組織図作成 【到達目標】 PCと周辺環境について理解する。企業の組織図を作成して、役職名や責任を知る			ワークブック	
2	ビジネス文書の受発信の流れと、表記法について 【到達目標】 組織図に照らし合わせ文書の流れを理解する			ワークブック	
3	商取引上の文書の種類について 【到達目標】 稟議書など帳票と印鑑、デジタルツールの活用を理解する			ワークブック	
4	社内、社外文書について 【到達目標】 相違点と注意ポイントをまとめる。フォーマットの説明と気をつけたい表現方を知る			ワークブック	
5	文書構成のまとめ。社交文書について 【到達目標】 さまざまな社交文書の書き方と表現のポイントを理解する			ワークブック	
6	グラフ、メールの作成について 【到達目標】 エクセルを使う際に気をつけるポイントを理解する。文書とメールの書き方の違いを知る			ワークブック	
7	新聞記事の読み方について 【到達目標】 新聞を読んで情報を得る習慣をつける。ビジネスで使用頻度の高い漢字が書けるようにする			ワークブック	
8	過去問題を解く。丁寧な解説をします（令和4年7月分） 【到達目標】 出題傾向を知り問題に慣れる			過去問題	
到達目標	ビジネス文書力を上げ、時事用語を身につける。12月のジョブパス検定3級に合格する。				
評価方法	ビジネスマナーワークブック提出（2回）及びジョブパス検定 3級合格にて単位取得				
テキスト	ビジネスマナーワークブック、ビジネス能力検定 3級テキスト				
学科	理容科	担当教員	池田・桝瀬		

科目名	ビジネスマインド	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	国際理容美容専門学校で学ぶ目的・『何のために学ぶのか』。を明確にするために、思考を整理する。				
授業回	学習内容			備 考	
1	・ 国際理容美容専門学校で学ぶ目的を明確にする				
2	・ 自己の目標を立てる（目標設定）				
3	・ クラスの目標を立てる（チームの目標設定）				
4	・ 個人のアクションプランを立てる（行動指針）				
5	・ クラス共通のアクションプランを立てる（行動指針）				
6	・ P D C A サイクル（『振り返り』とは）				
7	・ P D C A サイクル（『改善：KAIZEN』とは）				
8	・ 問題解決という思考とは				
到達目標	・ 個人目標とクラス目標を設定する、・ P D C A サイクル（思考）を獲得する。				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	・ 授業毎にプリント配布				

学科	理容科	担当教員	池田・桝瀬		
科目名	ビジネスマインド	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	・実務実習（インターンシップ）に向けて、事前学習する。				
授業回	学習内容			備 考	
1	・キャリアと仕事へのアプローチ				
2	・指示の受け方と報告、連絡、相談				
3	・電話対応と来客対応				
4・5	・職場でのコミュニケーション				
6	・実務実習に向けて①				
7	・実務実習に向けて②				
8	・実務実習の報告会				
到達目標	・実務実習に参加し、職場でのビジネス対応が一定レベルで実践できる。				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	・授業毎にプリント配布				

学科	理容科	担当教員	池田		
科目名	ビジネスマインド (情報処理 OA)	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	サロンビジネスに関する情報を収集・処理・分析し、必要な知識を身につけると同時に、プレゼンテーションツールとしてソフトが使えるスキルを学ぶ。				
授業回	学習内容			備 考	
1	・メディアリテラシー ～情報を取捨選択～ (メディアの特性理解、情報収集と活用方法) 【到達目標】メディア使用能力、表現能力、受容能力について理解し、説明することができる。				
2	情報モラル(著作権、肖像権、個人情報等) SNSトラブルについて考える(LINE教材使用) 【到達目標】著作権制度を中心に社会人として身に付けておくべきルールやモラルについて法律的・実務的観点に関する知識の学習し、正しく説明することができる。				
3	ウインドウズ基本操作のネット活用読み解く【到達目標】ウインドウズを使用しパソコンの使い方に慣れ、Word・Excel・PowerPointの特性を理解し操作することができる。				
4	・ビジネス文書作成 (各部名称～機能紹介、文字入力～書式設定、ページ設定、表の挿入、編集、画像の挿入～テキストの折り返し)【到達目標】架空のヘアサロンにおけるチラシを作成する。				
5	書式設定、表の挿入～編集、画像の挿入～テキストの折り返し 【到達目標】架空のヘアサロンにおけるチラシを作成することができる。				
6	・Excel基礎 (各部名称、データ入力、四則計算、達成率、構成比、オートフィル、SUM関数、絶対参照、表示形式の設定)【到達目標】架空のヘアサロンにおけるキャッシュフロー計算書を作成することができる。				
7	・表作成 (行・列の操作、シートの挿入、関数、データベース→顧客管理、並べ替え、抽出) 【到達目標】架空のヘアサロンにおけるキャッシュフロー計算書を作成することができる。				

8	・パワーポイントの基本操作 （スライド作成、編集、画像の挿入、アニメーション設定） 【到達目標】架空のヘアサロンをプレゼンテーションするための資料を作成することができる。	
到達目標	・P C 操作に必要な知識を身につけると同時に、エクセルやパワーポイントがプレゼンテーションツールとして使えるようになる。	
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は評価対象としない	
テキスト	・プリント教材	

学科	理容科	担当教員	立花		
科目名	高度総合理容技術理論（毛髪化学）	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	医薬品医療機等法によって化粧品と薬用化粧品の違いを理解する事によって、プロとして必要な知識とお客様に適切な商品と技術を提供する				
授業回	学習内容			備 考	
1・2	医薬品医療機等法を正しく理解する 【到達目標】「目標達成」薬事法の理解				
3・4	頭皮と髪の仕組みをしる 【到達目標】正しい頭皮所見を理解				
5・6	頭皮と髪の仕組みをしる 【到達目標】禿げやすいを見分ける				
7・8	頭皮と髪の仕組みをしる 【到達目標】ダメージ毛原因と種類を理解				
9・10	頭皮と髪の仕組みをしる 【到達目標】ダメージ毛の対処法理解				
11・12	総復習 【到達目標】プロとしてのカウンセリング術の理解				
到達目標	頭皮から髪のダメージを理解し、お客様にあったカウンセリングをマスターする				
評価方法	アイモデルでトータルカウンセリングの実施 その対応を評価				
テキスト	雑誌など				

学科	理容科		担当教員	高橋・池田	
科目名	高度総合理容技術実習 (スタイリストコース)		学 年	1	実施時期 後期
授業形態	実習		必修・選択 の別	選択必修	授業時間 (単位) 150
教育目標・ ねらい	理容技術の基礎的知識、技能を身につけ、ビューティークリエイターとして必要な応用する力と想像力を高める。				
授業回	学習内容				備 考
1～5	コンテストヘア	髪のを自由に表現するために必要なカットting技術とブローセット技術を応用し、クリエイティブなヘアスタイルを作成するための技術を習得する。			42時間
6～10	メンズレイヤー	レイヤーカットの特徴である毛先の動きや毛流れなどの質感を表現出来るようになる為に、ヘアカットting理論・技術ならびにブローセット理論・技術を習得する。			26
11～15	メンズグラデーション	グラデーションカットの特徴であるウェイトをコントロールし、バランスのとれたスタイルを表現できるようになる為に、ヘアカットting理論・技術ならびにブローセット理論・技術を習得する。			26
16～24	クラシカルバック	クラシカルバックスタイルの特徴である美しい調和のとれたスクエア シルエットを表現できるようになるため、ヘアカット技術並びに多彩なヘアブラシによるブローセット技術を習得する。			50
25	来客実習	教員による施術（シャンプー,マッサージ,シェービング,ブロー）のサポートを行い、お客様からの信頼を得るプロセスを実践的に経験する。			6
到達目標	ヘアスタイルを立体的に観測し、ヘアデザインの構造と技法を読み解く能力を活かし、ヘアスタイルをカタチにする技術を習得する。				
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	「理容技術理論1・2」「技術テキスト」				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、基礎技術をさらにブラッシュアップした創造的なスタイル作成の指導を行う				
学科	理容科	35	担当教員	伊原・桝瀬	

科目名	高度総合理容技術実習 (リラクゼーションコース)		学 年	1	実施時期	後期
授業形態	実習		必修・選択 の別	選択必修	授業時間 (単位)	150
教育目標・ ねらい	理容技術の基礎的知識、技能を身につけ、ビューティークリエイターとして必要な応用する力と想像力を高める。					
授業回	学習内容					備 考
1～8	ネイル	ネイリスト技能検定試験3級合格に向け、ネイルケア・カラーリング・ネイルアートなどネイル理論・技術の習得。				42時間
9～13	レディスシェービング エステ	レディースシェービングとフェイシャルエステを組み合わせ、お客様に心地よさと美しさを与え、素肌を美肌にするための知識と技術を習得する。				36
14～24	ブライダルシェービングエ ステ	ブライダルシェービングの基礎知識と、デコルテ・背中・腕・指などの各部位のシェービング理論・および技術を習得する。				66
25	来客実習	教員による施術（シャンプー,マッサージ,シェービング,ブロー）のサポートを行い、お客様からの信頼を得るプロセスを実践的に経験する。				6
到達目標	肌質やスキントラブルを分析し、シエステ(＝シェービングエステ)を駆使しながらモデルの肌を美しくする技能を身につける。また、ネイルやメイクなども加えることにより、トータルビューティーまで発展させた立案力・提案力を身につけている。					
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない					
テキスト	「理容技術理論1・2」「技術テキスト」					
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、基礎技術をさらにブラッシュアップした創造的なスタイル作成の指導を行う					